

<認知症対応型共同生活介護用>

評価結果報告書

地域密着型サービスの外部評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	11
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	2
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	6
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	11
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	30

事業所番号	4673900108
法人名	医療法人 トウスイ会
事業所名	グループホーム みのり園
訪問調査日	平成20年4月25日
評価確定日	平成20年5月23日
評価機関名	特定非営利活動法人 シルバーサービスネットワーク鹿児島

○項目番号について

外部評価は30項目です。

「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。

「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。

番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

○記入方法

[取り組みの事実]

ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。

[取り組みを期待したい項目]

確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に○をつけています。

[取り組みを期待したい内容]

「取り組みを期待したい項目」で○をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者（経営者と同義）を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

[認知症対応型共同生活介護用]

1. 評価結果概要表

【評価実施概要】

事業所番号	4673900108
法人名	医療法人 トウスイ会
事業所名	グループホーム みのり園
所在地	薩摩郡さつま町宮之城屋地1358番地の2 (電話) 0996-52-0122
評価機関名	特定非営利活動法人 シルバーサービスネットワーク鹿児島
所在地	鹿児島市真砂町34番1号 南光ビル303号
訪問調査日	平成20年4月25日

【情報提供票より】(平成20年3月28日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和・平成 15年8月14日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	16 人	常勤	16人, 非常勤 0人, 常勤換算 10.8人

(2) 建物概要

建物構造	木造平屋造り		
	1 階建ての	1 階 ~	1 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	31,500 円	その他の経費(月額)	円	
敷金	有(円)	(無)		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円)	有りの場合 償却の有無	有/無	
食材料費	朝食	250 円	昼食	350 円
	夕食	350 円	おやつ	50 円
	または1日当たり		1,000 円	

(4) 利用者の概要(3月28日現在)

利用者人数	18 名	男性	1 名	女性	17 名
要介護1	5 名	要介護2	7 名		
要介護3	5 名	要介護4	1 名		
要介護5	0 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 86.6 歳	最低	78 歳	最高	94 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	稲津病院・宮之城病院・杉田歯科
---------	-----------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

町の中心部に母体の病院と隣接して建てられており、近くには大型スーパーや公園等があり、気軽に外出やドライブが出来る環境である。住宅のような外観で、日当たりの良い庭には花壇や菜園があり、親しみやすくほのぼのとした雰囲気を感じられるホームである。母体病院やリハビリセンターと連携して、個別リハビリテーションや日々の活動の中に身体や思考を使ったりハビリを取り入れるなど、心身の機能低下防止に力を入れている。また、子ども会とのふれあいを大切にしたり、地域活動にスペースを提供するなど、地域への貢献に積極的にも取り組んでいる。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	「地域とのつきあい」や「同業者との交流を通じた向上」、「重度化や終末期に向けた方針の共有」等、前回指摘された課題の改善策について、全員で話し合い迅速に取り組み改善に至っている。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	全員参加の職員会議において自己評価を行い、ホームのあり方について顧みる機会としている。外部評価結果の指摘事項については、改善に向けた取り組み方法を話し合い、迅速に取り組んでいる。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	3ヶ月に1回の運営推進会議には、ご家族をはじめ公民館長、民生委員、行政担当者、法人担当者等、様々な立場の方々が参加しており、ホームから活動内容や状況報告を行い、参加者からは意見や質問、要望等が出されるなど双方向の会議となっており、サービス向上に活かしている。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	玄関には人目を惹くユニークな意見箱を設置しており、運営推進会議にはご家族の参加がある。また、花見などホームの行事にご家族が参加した際、意見や質問、希望を聞く機会を設けて、サービスに反映できるように取り組んでいる。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	七夕祭りや夏祭りの際、子供会のメンバーが訪れて踊りを披露したり、入居者と一緒に花火をするなど、子供たちとふれあう機会を設けている。また、地域の「ふれあいいいきサロン」として場所を提供するなど、地域へ開かれたホームとして積極的な交流に努めている。

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	住み慣れた地域で、周囲の方々との交流を持ちながら、家庭的でその人らしい生活を継続するための支援を大切にしたい理念を作り上げている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	リビングに理念を掲げると共に、ユニット毎に理念に基づいた年度目標を掲示している。毎朝の朝礼では、施設長が、理念に基づいた具体的なケアの方法について説明し、実践に向けて取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	七夕祭りや夏祭りの際、子供会のメンバーが訪れて踊りを披露したり、入居者と一緒に花火をするなど、子供たちとふれあう機会を設けている。また、地域の「ふれあいきいきサロン」として場所を提供するなど、地域へ開かれたホームとして積極的な交流に努めている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	全員参加の職員会議において自己評価を行い、ホームのあり方について顧みる機会としている。外部評価結果の指摘事項については、改善に向けた取り組み方法話し合い、迅速に取り組んでいる。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	3ヶ月に1回の運営推進会議には、ご家族をはじめ公民館長、民生委員、行政担当者、法人担当者等、様々な立場の方々が参加しており、ホームから活動内容や状況報告を行い、参加者からは意見や質問、要望等が出されるなど双方向の会議となっており、サービス向上に活かしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	施設長が、さつま町地域密着型サービス運営推進委員として町の会議に参加しており、町担当者に質問や相談が出来る機会を持っている。ホームで行われる運営推進会議前には町担当者がホームを訪れて、入居者の暮らしぶりを見てもらい意見交換を行っている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	4ヶ月毎に発行される「みのり園だより」には、行事案内やホームでの暮らしぶりを写真を入れて紹介している。また、面会時には金銭出納帳に確認印をもらい、新入職員があった場合は紹介している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関には人目を惹くユニークな意見箱を設置しており、運営推進会議にはご家族の参加がある。また、花見などホームの行事にご家族が参加した際、意見や質問、希望を聞く機会を設けて、サービスに反映できるように取り組んでいる。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	新入職員があった場合は入居者に紹介し、馴染むまでは他の職員とペアでケアにあたり、統一したケアの継続のために取り組んでいる。計画作成者の交代がある場合は、引継ぎ期間を十分にとり、ダメージを防ぐように配慮している。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修案内を職員へ紹介し、希望する研修を受講できるよう支援しており、受講後はホーム内で報告会を行うなど熱心に取り組んでいるが、段階に応じた育成計画は今のところ作られていない。	○	職員の経験や習熟度及び役割など、段階に応じて育成するための計画を立て、学びの機会が確保できるように取り組んでいただきたい。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	川薩地区のグループホームと職員間で交流を行っており、希望があればお互いに見学し合い意見交換を行いながら、サービスの質向上に努めている。今後は、入居者の交流も予定している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居申込みの際は必ず本人に同行してもらい、ホームを見学したり入居者と一緒にお茶を飲んでもらいながら雰囲気を知っていただく機会としている。1日体験入居も勧めている。入居後本人が落ち着かれない場合は、ご家族の協力により外出や外泊を繰り返しながら、少しずつホームに馴染んでいただけるように支援している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	竹の子掘りや魚の下ろし方、季節の料理の作り方や手順などを教えてもらったり、調理を一緒に行うなど支えあう関係を築いている。教えたもらった場合には、必ず感謝の言葉を伝えるようにしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	思いを伝えることが困難な入居者の場合は、表情や身振りで理解したり、ご家族や身近な方から情報を得ている。遠慮して自分の意見を表現しない方には、入浴などの際に1対1で話せる機会を作り思いや意向を汲み取っている。把握した内容は職員会議で話し合い、ケアに反映できるように取り組んでいる。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人やご家族の意見や希望を聴取すると共に、職員が日々の気づきを記載したケアプランノートの内容を取り入れながら介護計画を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	本人やご家族の意見や思いに加え、毎月開かれるケアプラン会議の中で、同一法人の医師・理学療法士・作業療法士からの意見も取り入れて、定期的及び状態変化時に介護計画の検討と見直しを行っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	母体である病院や隣接する同一法人のリハビリセンターを必要に応じて利用している。ケアプラン会議には専門職の参加があり、専門的な見地からの意見を取り入れるなどの連携が行われている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	訪問歯科を利用したり、その他の医療機関の受診はご家族同行を基本としながら、不可能な場合は職員が同行するなど、柔軟な対応を行っている。受診の際は、かかりつけ医に日常生活の状況を報告している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	入居時に、重度化した場合の方針について説明し、同意を得ている。また、入居後の状態変化の際は、かかりつけ医を交えて十分な話し合いを行い方針の共有を図っている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	プライバシーに関しては理念にも掲げており、特に注意を促している。職員は入職時に誓約書を交わしており、職員会議においても、施設長から個人情報保護について説明や指導が行われている。個人情報の開示については、同意書をいただき適切な取り扱いを行っている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ホームの時間にとらわれず今までの生活リズムを尊重しており、一人ひとりの状態や希望に合わせて、起床や食事が出来るように柔軟な対応がなされている。眠れない入居者には話し相手になったり、希望があれば夜食を作るなど、本人の意向に沿うように配慮している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居時に食べ物の好みを聴取し、メニューによっては代替品を準備している。ご家族からいただいた季節の食材を使ったり、行事に沿ったメニューや調理方法を入居者から聞くなどして、意向や希望を取り入れる機会を作っている。皮むきをしたり、配膳を行ったりして食事の準備、後片付けに入居者も参加している。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴時間帯は毎日午後からと決まっているが、季節や入居者の状態、希望に応じていつでも入浴できるようになっている。入浴時間や順番は、入居者の要望を取り入れて柔軟に対応しており、今後は夜間の入浴も検討している。		
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	食事の準備や後片付け、野菜作りや花壇の手入れなどを一緒に行い、得意なことを発揮できる機会を作っている。毎年見学している町の文化祭に、作品を出品する計画を立てて準備を進めている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	近隣にあるショッピングセンターへの買い物に出かけたり、希望があれば自宅の庭の草取りや墓参りなど、一人ひとりの意向や身体状況に合わせた支援を行っている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は、玄関や居室、外門の鍵はかけておらず、単独での外出による危険回避に努め、近隣住民にも協力要請をしており、自由な生活が行えるように支援している。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	火災訓練の際は、近隣住民へパンフレットを配布して参加を呼びかけたり協力要請をしている。夜間想定訓練も実施しており、隣接する病院当直者との協力体制を整えている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一日の水分摂取は、概ねの量を決めて摂取できるよう働きかけ、食事摂取量と共に入居者状況記録に記載している。献立については、同一法人の栄養士からチェックを受けており、適切な栄養バランスで摂取できるように心がけている。		水分摂取量を概ね決めて1日1回チェックしているが、職員の入替わりも考慮して、さらに詳細が理解しやすい記録方法を検討していただきたい。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
木					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	広々としたダイニングには畳ベッドや椅子が置かれ、職員やご家族からいただいた花々も飾られており、季節を感じながら心地よく過ごせるように配慮されている。庭先にはベンチも置かれ、花壇を眺めながらのんびりと過ごせるように工夫されている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	テレビやラジオの持ち込みも可能であり、タンスや椅子、テーブルなど、自宅で使っていた馴染みの物が置かれている。好みの壁飾りもなされて、個性的で思い思いの居室空間が作られている。		